

令和2年5月（2020年）No. 653

コロナ禍いで外出自粛中の今

持て余す“時間”にどう向き合うか

会長 合原一夫

例会休会中の為、会員の皆様とお会いすることも出来ず、誠に残念です。不気味な存在の新型コロナウイルス、早く終息してほしいですが、そのためには外出を控え“三密”を避けることだと云われています。私たちにとって安心して撮影にも行けない雰囲気になっています。

この OMC ニュースに堀皓二会員が参考になることを書いておられます。撮影済みで未編集の記録素材が沢山あり、これらを見直して新しい作品づくりに挑戦なさっているご様子。そうです、持て余す時間をチャンスととらえて新しい視点から作品構想を練り、古い素材を生かした“新作“を作ってみませんか。旅のものなど料理の仕方で、また別の作品が生まれるかもしれません。

■課題コンの「実」にも取り組んでください。

今まで撮られた多数の中からカットを捨て「実」の入った題名で作品構想してください。実際の起こったこと、実際に行ってきた話、実体験したこと、実りの秋、やっと実現した話等。“実に難しい”などと言わずに考えてみて下さい。

■ 課題コンテストの開催日は7月第2例会日（7月16日）です。

コロナのせいで9月第2例会に延びる可能性があります。



5月第2例会、通常例会ともお休みします

■コロナの禍が納まらないので、5月も例会はお休みします。

■皆さんの投稿をお待ちします 6月の OMC ニュースに掲載…締め切り 5月25日

■作品を会長宛に送ってください。・・・締め切り 5月25日

会長が講評をつけて OMC ニュースに掲載する一方、作品が見られる様に、進藤氏が例会場に替えて作品を見ることが出来るよう、2カ月間・会員限定の条件で You tube に登録されます。登録内容は、メールで会員の皆さんに通知されるのでご覧ください。またいずれ例会に出品して大きなスクリーンで上映の機会を設けてもいいと考えています。

<投稿>

「撮り溜め素材の編集で時間潰し」

堀 皓二

新型コロナウイルス禍は世界中に蔓延しています。OMC の仲間も外出はままならず、自宅に（軟禁？）状態が続いているのだとお察します。私もその一人で時間を持て余しておりました。ある日、気を取り直して自分の趣味の事をじっくり考えてみました。そうしたら、何時かは仕上げようと思いながら放りっぱなしにしていた撮影済みで未完成の記録が沢山ある事を思い出したのです。早速それらを丹念に点検して、作品作りに挑戦する事にしました。意外とわき目もふらず集中している自分がいました。

もう一つこの機会に実行している事があります。それは、過去に制作した作品をビデオに纏め友人に手紙を添えて送ったりしています。こんな時期だから皆さん、時間を持て余している人たちが多く事でしょう。それを観た人から感謝の知らせや話題が広がったりしますと、こちらも嬉しくなります。アマチュアビデオの存在をアピールするチャンスだと思いませんか？

ウイルスの終息が何時になるか分かりませんが、辛抱強くわが身を守りながら頑張りましょう。そして何時の日か元気でお会いしたいものです。

「当たり前前の生活が しあわせ」

中村 幸子

OMC 会員の皆様、如何お過ごしでしょうか？

予期していなかった「新型コロナウイルス」感染の広がり。先が見えない事への恐怖。今私は改めて実感している言葉がある。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う死者数凡そ1万5900人、一番多くの死者数は宮城県の凡そ9,500人余。

この東北の宮城県に私は震災の翌年から3度訪れ取材をした。私の心中に今も残る一人の被災者の言葉がある。それは「当たり前前の生活が しあわせ」。9年目の今も被災地は復興工事のダンプ等が行き交い、来るべき津波を恐れ住民は全て山の上の復興住宅に定住、高齢者は車の運転も出来ず山を下りる手段も無く週に2回の食料品の移動販売車が命を繋ぐ買い物弱者となり、高齢者の殆どは人との交流もなく自室に閉じ籠もっている。今年もこの現状を聞きながら数年前取材した折の被災者達の寂し気な顔が浮かぶ。今の「コロナ感染」とは比較にならない悲惨で過酷な自然災害の被害。今の私達の生活はどうだろうか？「コロナ感染」を避ける為、外出の回数を減らす事さえストレスを感じ、テレビが伝える感染者と死者数に落胆と恐怖がオーバーラップして行く。何時このコロナ感染の脅威から人間は解放されるのか？まだ何も見えていない。初めて体験する「新型コロナウイルス」に世界中の人間はなすすべもなく「当たり前前の生活が しあわせ」が取り戻せないでいる。

私が住む渡月橋周辺は外人客で賑わった風景も今は消え失せ静寂の中に大堰(おおい)川の瀬音だけが寂しく聞こえ古(いにしえ)に戻った様な錯覚になる。趣味も社会生活も消滅させ突然襲って来たこの疫病。平穏な生活があつてこそ趣味も持てるし楽しめる。時間は有り余る程あるのに落ち着かない日々。私達が今出来る事は外出を控えて睡眠、栄養、適度の運動を心掛けコロナに打ち勝つ身体と忍耐でこの事態を乗り切るしかない。何気なく過ごした「当たり前前の生活」が「いかに有難い事かを今噛み締めながら一日も早い「当たり前前の生活」に戻り映像仲間との再会を待ち望んでいる私です。「当たり前前の生活が しあわせ」。

しみじみそう思います。

4月例会に換えて

会長宛に寄せられた作品の紹介

いつもなら、この欄は例会に出品された作品の紹介と講評を載せるところですが、例のコロナウイルスのせいで休会続きのため、会長宛に作品を送り、講評を受けたものを、ここに紹介します。この作品は進藤氏が会員限定で You tube に公開されています。

1、愛犬ペックと過ごした日々 BD

堀 皓二

6分20秒

<作者コメント>

わが家の愛犬ペックと家族とが過ごした12年余りのコミカルな日常を描いた。今回未完成だったものに手を加え、ようやく完成させた。

<会長評>

わが家にやってきたペットの犬と家族が過ごした12年を映像記録されたもので、愛犬ペックも幸せな「犬生？」を送っているナと感じました。気が付いた点をあげればトップのタイトルシーンで家族と共に写っているスチール写真が主役の愛犬にズームアップするとピントが甘いことに、まずアレッと思いました。

この作品の主役は誰でしょう。犬？作者？それとも家族みんな？

この作品で、初老（ナレーションで言うておられる）の私と12歳を超した愛犬ペックも同じ初老になっていて、今まで毎日4キロを12年間散歩してきたから、計算上1マン7280キロを歩いたことになる、というナレーションになっていますが、この辺りの表現が惜しい。愛犬が歩いたということは自分も共に歩いてきたということであるから、私（作者）の健康を支えて来てくれたことに、ペックに感謝しなくちゃ。

そして、これから一緒に元気で歩いて行こうよ、高齢者同士なあ、たのむぞ ペック！こういう終わり方をすれば第三者が観るとき、きっと感動が得られる筈です。

2、高取ひな巡り

BD

江村 一郎

8分00秒

<作者コメント>

今年は新型コロナウィルス予防のため中止となっていますが、一年前に岡本氏の提案でOMC撮影会企画のひとつとして下見を兼ねて、奈良盆地を一望する壺阪寺～城下町の風情が残る土佐街道周辺で個人宅のひな人形やイベント会場を巡る。

<会長評>

高取町のひな祭りは、以前岡本さんが撮ってきておられたが、岡本作品とはひと味違った纏め方をしておられます。壺阪寺のひな人形、膨大な数のひな人形は圧巻です。町家のひな飾りとそれを見る観光客、江村さんならではの映像表現が見られます。撮影会の下見ということですが、来年ここをテーマに撮影会するなら、ぜひ共、作る側の人にコンタクト取って、作る苦労や喜び等の声が欲しいものです。作って準備する側、見て楽しんでいる人、両方あれば立派な作品になり得るテーマだと思います。

3、フランスロワール地方古城を訪ねて

BD

中川良三

10分57秒

<作者コメント>

2015年のフランス旅行の想いでビデオ。

日本のお城も数多くありますがフランスのロワール地方にもお城が多く存在しています、ツアーではアンポワーズ城とシュノンソー城を周り、特にシュノンソー城については16世紀、17世紀のオリジナルの家具、大理石のアクセサリ、17世紀のタペストリー、そして著名な画家が描いた絵画、もちろんすべてオリジナルの状態が残っているのが珍しいとのこと、ネットで詳細を再度調べ、旅行の思い出に浸りながら、編集作業に取り組み作成しました。

<会長評>



中川さんも5年ほど前はヨーロッパの旅をずいぶん楽しんでこられたようですね。今回はフランスの古城めぐりです。どうも観光PR映画になってしまっているのは残念です。せっかく外国旅行されたら、自分が何を感じ、何がよかったか感動したかの視点で描くと「自分だけしか作れない作品」になります。

500年ほど前、こんな立派な城を作った当時の職人さん達、芸術家たちは偉かったんだなあって感動もわいてきます。

建物の解説だけにとらわれず、自分の感じたこと思うことを正直に伝えるような”作品”を目指されたら飛躍的に向上される可能性を秘めた作者・中川良三さんだと思います。

4、帝釈寺 福護摩祭り BD

進藤 信男 11分50秒

<作者コメント>

地名として残された「外院」。これがこの寺院の由来を表していた。普段何気なく通り、寺の坊さんとも何気なく話していた中に、歴史が隠されていた。まとめてみると、村人達との絆が連綿と繋がっている。節分の行事、星祭りも今に残る人々の「御接待」の気持ちに支えられた素朴な地域性が見えてくるのだ。北摂の郊外に、こんな生活スタイルを再発見した思いがする。

<会長評>

箕面の帝釈寺で開催された福護摩祭り、なかでも素足で火種の上を歩く”火渡り神事”を山場として描かれている。丁寧に記録されていて雰囲気がよく伝わりました。ナレーションのところは、現地音を相当絞らないと、何を言っておられるのか判りにくいところがありました。注意しましょう。クレジットタイトルの後に続くトップシーンの音がないのが少し気になりました。



5、神泉苑の桜 BD

高瀬 辰雄 8分20秒

<作者コメント>

平安時代に造営されたといわれる神泉苑の池の周囲に桜の木が植えられています。朝の散歩コースにあり、今年には自由に出かけることが憚れるため、ほぼ毎朝訪れ、いろいろと撮影しましたが、花の散るシーンは今ひとつ。

<会長評>

なかなか見ごたえのある出来栄で、神泉苑の桜が見事に今年も咲き、そして散っていった様子が映像詩的によく書かれています。映像の中に人は一人も出てきません。桜の季節に人をまったく入れないで撮影するには開門前に行って撮らせてもらう以外ないでしょうが、逆にコロナ騒ぎで令和2年の春だから、人が自粛して出掛けなかったという設定もあり得るでしょう。

私がこの作品をまとめるなら下記のようなのですが難しいかも。

- | | |
|------------------------------|---|
| ①神泉苑の桜が見事に今年も咲いた | ④人の世界は今大変だが桜の花は変わらぬ姿を見せてくれた |
| ②令和2年の今年は、コロナ騒ぎで外出の自粛で人の姿がない | ⑤来年の春は又きれいに咲いてくれるだろう、その時みんなが桜を楽しめることを祈りたい気持ちで一杯だ。 |
| ③だけど花は例年通り咲き、そして散っていった。 | |

作者のラストのカットが神泉苑の鳥居と建物で終わっているが、この作品の場合は、散った花びらで一杯のカットで終わった方が印象に残ったと思います。

